

「創造性を概念だけではなく、現場で実践できる
という手触り感のある学びが得られるんです」



「必須研修ではないのに、開催を増設しなければならないほど、常に受講希望者が多い研修です。ものづくりのプロである現場の社員が、『このプログラムは現場ですぐに使えるぞ』、と肌で感じたからではないでしょうか」

◆ 導入事例：パナソニック株式会社 様



ビジネス環境の変化が激しい中、家電中心ビジネスからソリューションビジネス（＝価値を創るビジネス）へと移行しているパナソニック様では、新たな時代に求められる人材育成に積極的に取り組んでいます。

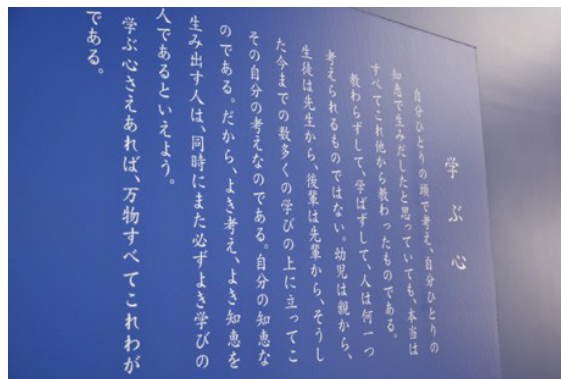
新しい付加価値を生み出せる人材育成の一環として、4年間にわたって導入頂いている「一歩上をいくクリエイティブシンキング」について、パナソニック株式会社人材開発カンパニー研修グループ参事の小藪様にお話を伺いました。

「一歩上をいくクリエイティブシンキング」の概要について

パナソニック人材開発カンパニーの役割、小藪さんのミッションについて教えてください

人材開発カンパニーは、パナソニックグループの従業員を対象とした人材育成・教育訓練を担っている組織になります。主に社員向けに研修を実施していますが、社外の会社様向けにも一部研修サービスを提供しております。

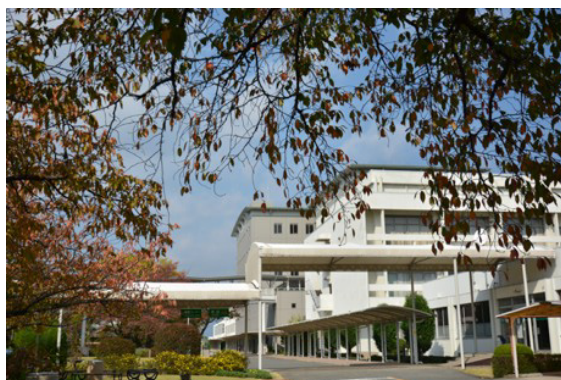
組織の体制は、ものづくり系（製造系）の社員育成、幹部育成、マーケティング人材（営業人材）育成、技術者育成の4つの部門に分かれて教育訓練を行っています。私は技術者育成に携わっており、技術者の技術マネジメント力（ヒューマンスキル・マネジメント系）向上を推進するのが私のミッションです。



どのような背景で導入をされたのでしょうか？

現在パナソニックでは、非常に速いスピードでソリューションビジネスへと移行しています。家電中心からソリューションへ。ソリューションをつくる、そこで価値を生み出すとなると、必ずクリエイティビティが必要になります。

では、誰がクリエイティビティを発揮するの？と言われたら、今までは商品企画の人たちでした。後工程の技術者は、企画を形にする役割で、分業していたと言えます。しかしこれからの時代は、商品企画と技術者の境目があいまいになり、今までのプロセスが壊れます。設計開発する人も、何が付加価値かを見届けないと価値があるソリューションは作れません。



研修の中でも講師の方が伝えてくれています。技術者が現場にいて観察する、そこからでない新しいものは生まれません。そのため、技術者にはよりクリエイティビティが今まで以上に求められると考えています。そのクリエイティビティを発揮させる際に、現場の業務と非常に親和性の高いプログラムを持っていたのがToBeingsさんで、導入をさせていただきました。

どんな研修だったのでしょうか？

本研修の位置付けを教えてください

価値づくりのためには、そこに至るまでの論理性と新規性が求められます。従来のやり方、固定概念にはまったやり方ではイノベーションは起こせません。今まで積み上げてきたものに、新しい付加価値をつけるには、論理性と新規性が重要です。

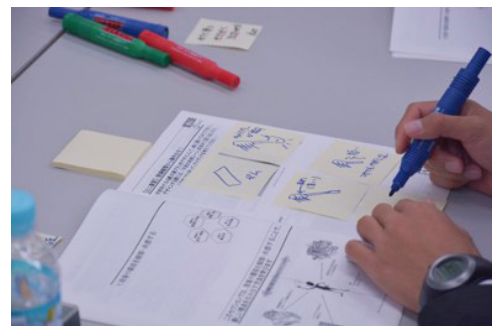
今まで社内においては、論理思考の研修は人気があり、様々なレベルのプログラムが整備されてきてきました。論理思考を学んだ後に、次のステップとして新しく価値を生み出す力を鍛える機会、その論理性とスムーズな繋がりをもって新規性・クリエイティブなところを鍛える機会が、この「一步上をいくクリエイティブシンキング」です。

論理性との繋がりという部分をもう少しお話いただけますか？

ToBeings さんは3つの思考法（ロジカルシンキング、クリエイティブシンキング、システムシンキング）の全てをプログラムで持っているからだからと思いますが、正直中身を見せていただいて、ロジカルシンキングとの繋がりがうまくできています。

一例になりますが、ものを観察して、抽象化して新しい価値をつくる場所がありますよね？ああいうところは、抽象化するには、いまの目の前で起きたことや情報をどう捉えるか？が大事になってくると思います。

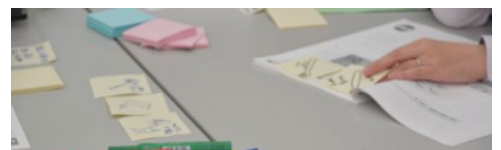
どう捉えるか？ について、論理的な見方で見ているのがロジカルシンキングの中でやっていること。その見方を壊して、ズラしてさらに違う見方で捉えるやり方・深め方を学んでいるのが、今のクリエイティブシンキングのプログラムでやることなので、論理性で学んだ学びが生きていると感じます。



具体的にどのような研修だったのか教えてください

クリエイティビティというと、いきなりアイデア発想になりがちですが、そうではなく現場・現実をしっかりと観察した上でどう新しいものを生み出すかが、この研修の醍醐味だと思います。

クリエイティビティを発揮すると聞くと、閃きや才能だって考えがちですが、実際はそうではありません。プロセスや場のもち方、アプローチのやり方がとても重要です。



インタビューを最後までご覧になりたい場合は
ウェブサイトよりお問い合わせ下さい